



たむらの稲作情報 ー第7号ー

令和8年8月26日発行

JA福島さくらたむら統括センター・田村農業普及所〈問合せ先:0247-62-3113〉

〔普及所 HP: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36221a/r8inasakuinfo-01.html>〕

- 7～8月の気温がほぼ平年並みのため収穫適期は平年並みの見込み
- 一部で葉色が濃く、草丈が長い傾向⇒秋雨等により倒伏が増加
⇒ **収穫適期となったほ場は速やかに収穫しましょう！**

【東北地方1か月予報】(仙台管区气象台 8/20 発表)

・気温は平年より高く、日照時間は平年並み、降水量は平年より多い見込み

草丈はやや長く、茎数は平年並み、葉色はやや濃い
出穂期は平年並み～数日遅い

表1 現在の水稻の生育状況

品種	移植期	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色値 (SPAD)	出穂期
ひとめぼれ	5/15	87.7 (104%)	523 (104%)	35.8 (+3.0)	7/31 (±0)
コシヒカリ	5/15	96.9 (108%)	446 (95%)	32.6 (+2.3)	8/11 (+3)

※農業総合センターの作柄解析試験ほ(郡山市)の調査結果(7/28調査)

※カッコ内の数値は前5年平均との比較

1 収穫・乾燥調製機械の事前点検・整備

収穫・乾燥調製機械の清掃をていねいに行い、ごみ・土砂等を混入させないように、事前準備を
しっかり行いましょう！ 卓上型水分計の精度も確認しておきましょう。

☑放射性物質対策(交差汚染防止)を徹底しましょう！

震災後、使用したことのない籾摺機や選別・計量器を中古購入、譲渡等により使用する場合、放射性物質の交差汚染が発生する恐れがあります。

機械内部の放射性物質を取り除くため、「とも洗い」の実施が必要となります。

☆対象となる機械を使用する方は、普及所やJA等へ早めにご相談ください。

2 米の放射性物質検査について

◇県では、令和8年産米のモニタリング検査を実施します。(田村市・三春町・小野町産米全て対象)

◇各検査地域区分ごと(※)の検査終了までは、8年産米の出荷・販売・譲渡の自粛をお願いします
(親戚等への無償配布を含みます)。 ※田村市:旧町村単位、三春町・小野町:町単位検査

◇検査の進捗状況は、各自で集荷事業者や普及所へ問合せいただくか、県HPで御確認願います。

参考:県水田畑作課 HP アドレス

<https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36035b/daishinsai-kokurui-monitoring-shinchoku-r8.html>



3 収穫適期の目安

刈り遅れると、胴割粒や倒伏による穂発芽等の増加など、品質低下のリスクが高まります！

(1) 積算気温からの収穫適期の予想

出穂後の日平均気温の積算気温によるおおよその収穫適期は下表のとおりです。

- ◆「チヨニシキ」・「ひとめぼれ」…“積算気温 950～1100 ℃”が収穫適期
- ◆「里山のつぶ」・「天のつぶ」・「コシヒカリ」…“積算気温 1000～1200 ℃”が収穫適期

表2 主な品種・地区別の収穫適期の目安（予想）

品種	地区	出穂期(平年差)	収穫適期(予想) ※	収穫適期晩限(予想)
里山のつぶ	船引	7/29(±0)	9/12～9/21	9/22 以降
ひとめぼれ	小野	8/1(±0)	9/13～9/20	9/27 以降
コシヒカリ	三春	8/6(－1)	9/21～10/3	10/4 以降

※ 船引・三春はアメダス船引、小野はアメダス小野新町の気温データを利用し、8月25日までは実測値を利用、それ以降は平年値を利用して平均気温を積算し、推測した。

(2) 籾の黄化状況による判断

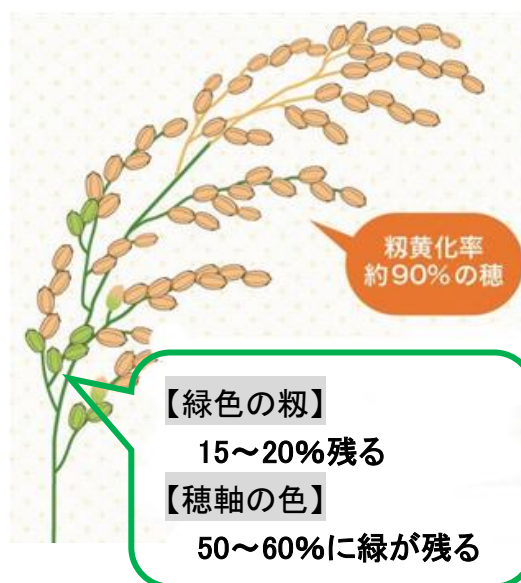
ほ場全体を見渡し、平均的な株の穂で判断する。

適期は85～90%の籾が黄化した時期です。適期となったほ場は速やかに刈取りましょう！

また、収穫時期に降雨が予想される場合、降雨前に収穫しましょう。

稲わらの色ではなく、籾の黄化状況から判断！

- ◆刈り遅れ⇒胴割粒や着色粒等が増加
- ◆早刈り ⇒青未熟粒の増加



(3) 収穫後の乾燥・調製

◇変質を防ぐため、刈取り後すみやかに乾燥機に張り込み、送風します（ヤケ米に注意！）。

◇乾燥中の胴割れを防ぐため、倒伏したほ場など、籾水分の高い稲を乾燥する場合は、籾水分のバラツキをなくすために、二段乾燥を行いましょう。

4 稲刈り後の秋耕の実施(土づくり)

収穫後は、気温の高い10月中旬に秋耕を行い、稲わらをすきこみましょう！

なお、鶏ふんや牛ふん堆肥、土壌改良資材を稲わらと一緒にすきこむことで、稲わらの分解が早まり、地力向上につながります！

目安量(/10a): 発酵鶏糞～30～60 kg、牛ふん堆肥～1トン

≪農作業安全運動重点推進期間～9月1日～10月31日まで～≫

◎気温が高いので、熱中症対策をしながら作業しましょう(こまめな休憩、水分補給など)

◎コンバイン・トラクター等の機械作業時は、転倒等の事故に十分注意しましょう